

登子連創立40年に向けて

2005年が明けて、登別市子ども会育成連絡協議会は、40年の大きな節目を迎えます。

昭和40年、当時幌別町と呼ばれていた時代に19単位会、2千800人で発足、現在は小学校区9地区連60単位会、約3千500人。以来、歴代会長をはじめ、役員や熱心な育成者により、活動の輪が広がっています。

高度成長期の一時には、6千500人を数えたこともありましたが、時代の流れで少子化が進み、加えて子どもたちが加害者になったり、被害者になったりなどの犯罪等が大きな社会問題として取り上げられていた現在ですが、地域の子どもたちを心豊かにたくましく育てる子ども会活動を提唱し、一丸となつて続けています。

本年8月には40周年記念事業を



▲第29回登子連こいのぼりマラソン大会

実行委員会が企画しており、親子で参加できる楽しい物と考えています。また、11月ころには記念式典も予定しています。

子どもたちの健全育成には、数多くの課題はありますが、学校や地域、家庭と連携を取り合いながら、さらに充実した活動を推進していきますので、関係各位のご理解、ご協力をお願いします。

(登別町／川島芳治さん・登別市子ども会育成連絡協議会会長)

明るく、平和で幸せな暮らしができるように

2004年のわが家は、不安、心配、そしてうれしいこともあったが、国では台風が何度も上陸。秋になつて地震災害と大変な1年を暮らした・・・

わが家の不安、心配とは、幌別自衛隊に勤務している息子が2月21日から3カ月間イラク人道復興支援に行くことでした。家族全員で朝から千歳基地へ見送りに行きました。見送りに来てた人たちは、夜空へ見えなくなる飛行機に向かって、どうか全員が無事、何事もなく戻ってくることを願ったにちがいない。

翌日、孫の苫小牧高専の受験があり、その6日後、合格の通知があり喜んだものだ。イラクに行つ

てる父は、合格を自衛隊から知らされ安心したようだった。

それから1カ月後、今度は、高校を卒業した孫が、江別の方にある大学へ進学のため、その子を娘と送り出かけた。アパートの部屋に入り、これから4年間、家では何もしたくない子が、一人で自炊などやっていけるのか、不安を感じた。帰る途中、車の中で自立のためだから、と心に言い聞かせ涙をのんだ。

そして4月、もう1人いる女の子の孫も、中学校へと進学。

あれこれ忙しく暮らしているうちに5月31日となり、イラクでの任務を終えた息子の出迎えに、旭川空港へ行つた。帰ってきた息子に「大変だったろうけどご苦労さん」と声をかけ、無事、家に戻ってきた事を昨日のことのように思い出します。

イラクの方では、連日大変な事が起きているようですが、1日も早く平和がくる事を祈っています。夏には、日本に何度も大きな台風がきて被害を受け、10月には新潟中越地震が起こった。国は、できるかぎりの援助をしてやってほしいと願う。

そして2005年は、明るく平和で幸せな暮らしができるよう皆で頑張っていこうと叫びたい。

(富士町／山田満智子さん)

2004年を振り返って⑨



▲市民スポーツ・健康フェスティバル (9月19日)



▲平成16年度地区懇談会 (10月12日～)